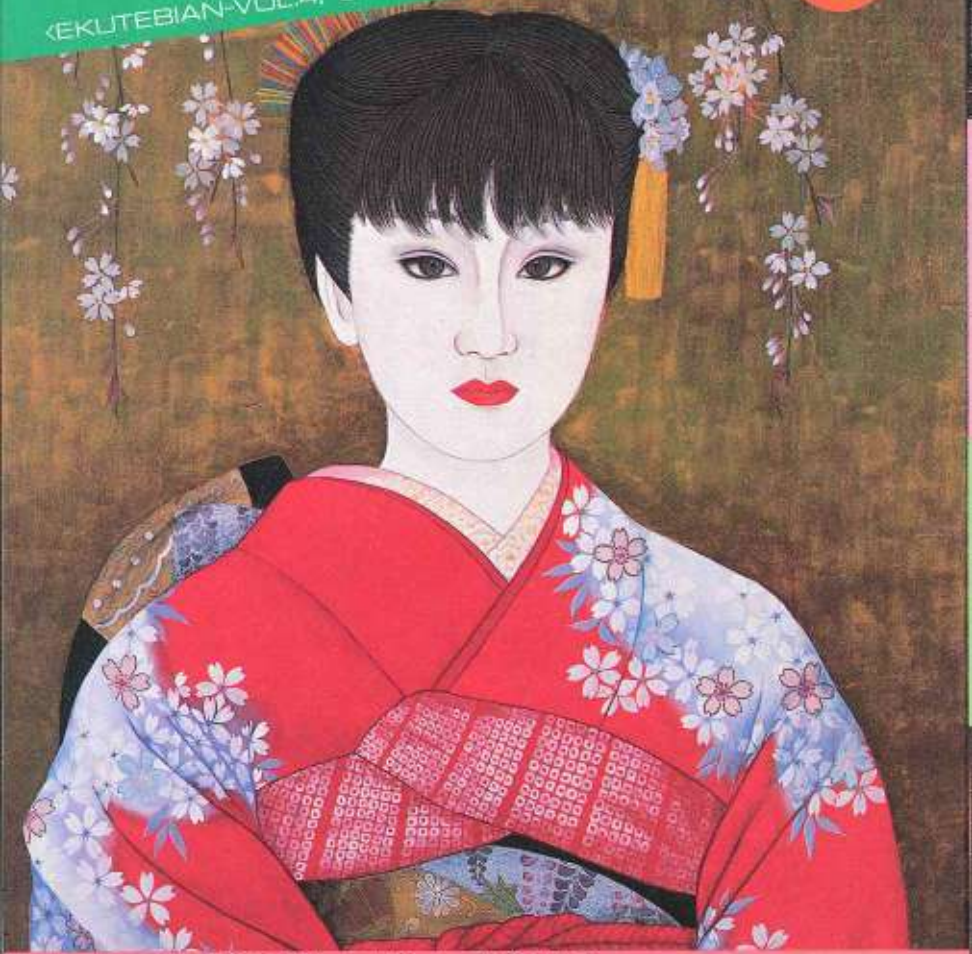
月刊

立川と語ろう　立川に生きよう

えくてびあん

1

〈EKUTEBIAN-VOL.4, JANUARY 1987-EKUTEBIAN〉



まい あーと・日本画「娘・二十歳」by 高橋美智子

某月某日 立川雪景色

雪が降る　あなたはこない……。雪やこんこん　あられやこんこん……。雪の降る街を雪の降る街を……。私たちが雪にかけてきた想いは数しれない、嬉しい雪、悲しい雪。だが、一様にいえることは他の季節にはない「別の顔」をみせてくれることだ。雪化粧をした、美しい「もう一つの立川」をご覧いただこう。きれいでしょう。

(上)武蔵野の面影残す玉川上水
(下)犬は喜び庭、駆けまわる

(上)「おっと」慣れない雪道はしんどい
(下)たくさん着こんで雪国の子の様

(上)大きな雪ダルマは皆の合作
(下)空からの贈り物に大喜び

見慣れた景色も一夜にして白く染まる。
雪の日は余分な音も吸い取られて静かだ。

立川が笑った一週間

「ベスト立川人・展'86」に今年も素敵な人が集まった。会場にあふれる暖かい空気に師走のあわただしさも、外の寒さも忘れ、しばし心の休息が。

今年は二時の開展と同時に多くの方が来訪してくださった。

出場の立川人はそれぞれ地域で活躍している方が多く、来訪者が出場者を直接知っていたりと、より身近かな親近感からか会場内での話題交換が盛んに行われて、なごやかな中にも活気にあふれる空気が会場にみなぎった。

また、「こんな人が立川にいたんですか」と昨年と同様に新たな発見をして喜ぶ来訪者も多かった。

出場の立川人の知り合い同志が会場で初めて会って共通の話題から仲良くなるほど、立川人をめぐりさまざまな出逢いのドラマも生まれて友情の輪もひろがったようだ。

「えくてびあん」創刊第二号で表紙を飾ってくださった結城公子さんと生徒さんによるバンフラワーと立川人展出場の凧作り名人、五十嵐正市さんの凧が飾られて会場が明るくなった。来訪者も見事な作品に感心していた。

二回目になる「ベスト立川人・展'86」も昨年同様に多くの方々の協力を頂き盛況のうちに閉展することが出来た。もはや立川市民の催事となりつつある感がある。あたたかな人と人とのつながりが多くの方の協力から生まれた。市民が市民の手で市民を賛えることが出来るのも全国653市の中で立川だけだ。それぞれが一所懸命に生き、立川を愛し、人を愛する市民が多いゆえに他の市では出来ない行事が出来るのではないだろうか。にぎやかなかなかでホットな一週間にしばし立川が明るくなった。

オープニング・パーティーから

志村さんの音頭で乾杯

なごやかな雰囲気が会場に

立川人の紹介に聞き入る

動物写真家の久田雅夫さん

名人芸の披露は清水正広さん

少年ゴルファー久田謙くんの挨拶に会場はわいた

ハンドベル指揮者、児玉勝己さんも参加

自慢ののどをきかす 安藤光子さん

藤さんのマジックに注目！

立川・歴史のひとコマ ⑫ 流泉寺

砂川――江戸時代初期、開拓農民は荒地を切り開き、関東特有の冬の強風が砂塵をまきあげる中、夏は炎天下で、黙々と切り株を掘り、土を慈しみ、開墾の辛苦を重ねました。砂川の歴史のどのひとこまも、この苦労なしには語れません。

武蔵野台地は水が乏しく、当時の農民にとっては飲み水すら一滴が貴重でした。風呂も湯舟も知らずに一生を終るお百姓がほとんどで、入浴のかわりに〝芝行水〟というものがあったといわれています。つまり、湯水が使えないために、刈り取った草の葉で身体をこすって垢を落としたのです。

また、「堀りかねの井戸」（堀っても堀っても堀りかねる井戸、水の出かねる井戸の意）と呼ばれる井戸が武蔵野台地のそこここにありました。

五日市街道沿いに〝まいまいずの井戸〟跡があります。これも極端に水位の低いところから水をとる堀井法で、台地が砂礫層で崩れ易くて始めからまっすぐに堀りすすめないために、まいまいつぶろ（蝸牛）の殻のようにらせん形の下り坂をまず堀り広げて、低い水脈に近づいてから垂直に堀り下げる井戸のことです。重い水桶を担いで、井戸端まで毎日上り下りする苦労はどれほど大変だったことでしょう。

砂川三番の流泉寺は、村人の心の支えとして一六五〇年に建立されました。この寺の名は、こんこんと湧き出て音高く流れる泉を想起させます。水を渇望した農民の祈りと願いがこの名にこめられているように感じられてなりません。

武蔵野台地を潤した玉川上水が開通したのは、流泉寺建立より四年後、砂川分水が引かれたのはさらにその三年後のことでした。

「立川・歴史のひとコマ」は今回をもって終了します。立川の歴史を調べれば調べるほどこの地が好きになりました。古き時代の立川のあの人この人と仲好しになれた気分です。

（K・K）

＊　＊　＊

漢字テスト⑫

空欄に二字押入を試みよ。

明□止水
雪中□炭

給与振込は〈ハートの銀行〉
全国約360か店の便利さをご活用ください。
心のふれあい・愛大切にします
ハートの銀行
第一勧業銀行

表紙は語る

お風呂屋さんの奥さん、高橋美智子さんが絵を描きはじめてから6年になる。いや、わずか6年で表紙の「娘・二十歳」は第二回多摩総合美術展入選というから、そのウデのたしかさが知れよう。

モデルはお嬢さまですか。「ええ、去年、成人式をむかえさせて頂きました。もう、すっかり手がかからなくなったので、絵のほうにも力を入れられるようになりました」。表紙の絵は「架空の美人」ではなかったわけである。

「国立の田中峰雪先生にご指導いただいているんです。先生に出逢えたのがなによりでした。それに今は水の底に沈んでしまいましたが、小河内中学の時代に美術を教えてくださった広瀬孝範先生ですね。先生はいつも、お前たちは人生を豊かにするために趣味をもちなさいと教えてくださいました」。

ご主人がまた素晴しい世界をもっておられる。刻字・篆刻をされすでに「水華」の号をもっておられる。

ご夫婦そろって芸術家。お風呂屋さんの名は「立花湯」、栄町4丁目にある。

真如苑だより

今年は真如苑で、新しい年をお迎えください。除夜の鐘をついてみませんか。

ご希望の方は大晦日、午後11時半に真如苑までおこしください。ご案内させて頂きます。大勢さまの場合は、制限させて頂く場合があるかもしれませんが、何卒、ご了承くださいませ。

＊

新しい年には、新しい空気をお吸いください。今月も皆さまのおこしをお待ちもうしあげます。

■日時　1月19日(月)
午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

漢字テスト・答

明鏡止水
雪中に炭

工房から

●オトナになると、月日がたつのが早いのは、なぜでしょうか。コドモの時に「もういくつねるとおしょうがつ」と、指おり数えて待ったあの日々が懐しい。この頃はもう、月日のほうが先まわりをして、私たちを待ちぶせしている。オソロシイことです。●おなじみになりました「ベスト立川人・展」なごやかなうちに閉展させていただきました。ご協力くださった方方、ほんとうに有難うございました。お土産の『立川カレンダー・365句』もこの街のオリジナル、喜んでいただけたのはなによりでした。●特に嬉しかったのは、会場で知らない同志がうちとけて、新しい知己をひろげてゆく姿でした。立川の「なごみ」です●去年よくて　今年もいいぞ　祝い歳。

（編集）秋山光久　石塚敦美　大野玲子　加賀桂子　神山清子　鶴川理　田中恵子　半沢正弘
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治
スタジオ269

月刊えくてびあん　第30号
昭和六十二年一月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

料理もたのしめて、お酒にもふさわしい雰囲気をもっている店、ここ「オランダヤ・ハイネケンフック」。ひと味ちがう重量感があるのは、料理がユニークだからか、サービスがゆきとどいているからか、あるいは、インテリアが功を奏しているのか。その名のとおり、オランダをモチーフにしていて一貫したポリシーがお客を憩いに導いているようだ。

曙町二丁目☎(27)八〇四五

奥のバー・カウンター。ウイスキーなら質と量で立川一か。

創る人がいて、味わう人がいる。この華麗な当り前の世界。

GOCHISO-KAN

御馳走館

立川

和牛ロースのたたき
1,200円

この店には、北ヨーロッパ特有のウッディーなセンスがあふれている。

大根のサラダ
650円

手のこんだメニューは少ないが、オリジナルな逸品で勝負というところ。